

センター月だより

〒 507 0034 多治見市豊岡町 55 ヤマカまなびパーク4F TEL 0572-23-3455 FAX 0572-26-8813

指導日誌より

= 瑞浪地区 =

男子高校生の自転車指導が多かった。スマホをしながらの運転が2人、無灯火が3人、横列走行が2人いた。歩きスマホ、ゴミのポイ捨て、たむろ等もあり指導した。(7/1 瑞浪B)

多治見の37度が日本一の猛暑日。少し和らいだ巡回時には、散歩の親子連れやキャッチボールをしている子らも。自転車の小学生には安全運転を呼びかけた。キャッチボールの子は手を振ってくれた。(7/5 稲津F)

高校生4人が帰っていった後に、花火をした跡があった。花火のゴミを詰めたペットボトルが捨ててあったので片付けた。無灯火自転車の男子高校生4人を指導した。(7/6 瑞浪A)

駅で高校生や社会人に声かけをする。朝、中学生による清掃活動が行なわれており、学校周辺はきれいであった。(7/7 釜戸G)

大川祇園祭りの会場及び周辺を巡回しました。大人も子どもも大勢の方が踊っていて賑やかでした。多くの児童、生徒とあいさつ出来て良かったです。(7/16 陶E)

駅前で19時20分頃、数人の高校生が3グループ程、ポケモンGOのゲームに熱中していた。早く帰宅するように指導した。(7/24 日吉J)

= 土岐地区 =

駅前トイレ前で座ってお菓子を食べている女子高生2人に、ゴミは片づけていくように声かけ。トイレの中はタバコ等のゴミはなかった。(7/5 泉8)

榎公園前に住む方に最近の公園内の様子を伺うと、公園で花火をする子どもたちはいないが、時々酔っ払いが夜中にうるさいとのことでした。(7/6 泉9)

市の「あいさつデー」だったので、小学生、中学生共に大きな声であいさつをする姿があった。登校時、下校時の声かけを今後も続けて行く。(7/12 鶴里4)

花火に来ている者、多数。ポケモンGOの気分でスマホを持っていつまでも輪になっている小、中、高生がいて、早く帰るように声をかけた。(7/23 肥田7)

花火終了後、駅前には午後10時を過ぎても若者が大勢いて、ゲームをしたり、話し込んだりして賑やかだった。派手な車が3台、爆音を発していた。警察官に注意を受けていた。(7/23 特A)

夏祭りの会場で、小学生、中学生とその保護者の中

◆◆◆ 7月 声かけ活動の結果 ◆◆◆

(夏休み夜間特別活動を含みます)

	多治見地区	瑞浪地区	土岐地区	合計
指導人数	6	12	2	20
声かけ人数	730	156	496	1382
指導員参加者	132	43	66	241

心に声かけをした。「こんばんは」のあいさつだけでなくいろんな会話ができた。(7/30 駄知6)

平成公園でバイクを置いてベンチに寝そべっている有職少年に声をかけた。ベンチの照明があると、防犯上も良いと思う。(7/30 下石2)

= 多治見地区 =

ながせ祇園祭りに来た小、中、高生に声をかけた。声をかけると、そのほとんどがきちんとあいさつを返してくれた。(7/12 精華2)

川北地区祇園祭りのため、ながせ通りには多くの夜店が並び、高校生、中学生、家族連れの小中学生などが多く、声をかけると元気の良いあいさつが返ってきました。(7/12 昭和4)

小学生は帰宅後、児童館に集まりだしていた。6年生は宿題をしている子もいた。中学生の下校を見届けた。我々の姿を見て、逆にはしゃぐ生徒もいて、素直に帰っていかなかった。(7/15 池田6)

銀座通りの祇園祭りの日に声かけをした。各中学校から補導指導員も出ており、数年前と比べ落ち着いて、安心できる様子でした。(7/16 養正)

夏休み初日であったが、暑かったので子どもたちは児童館等で遊んでおり、外で活動している子はほとんどいなかった。巡回しても声をかけることが無く、少し寂しい気がした。(7/21 脇之島12)

夏祭り会場の小学校の外回りやグラントを中心に声かけ。今年はゴミのポイ捨ても少なく、タバコの吸い殻も見つかりませんでした。大勢の子どもたちで賑わい、あいさつや声かけに答えて言葉を返してくれました。(7/24 南姫9)

明和町祭り会場で9時終了後も帰らない中学生の集団がいて、会場整理のじゃまをしていた。声かけを続けるうちに帰り出し、9時40分には全員が帰っていった。(7/30 北栄1)

「黒焦げの少年」と沖縄

長崎原爆資料館に展示されている写真「黒焦げの少年」は、戦後の長い間、原爆の悲惨さを伝えてきたが、戦後71年目の今年6月、法医学者らの鑑定で、旧制長崎県立瓊浦(けいほ)中学校1年だった谷崎昭治さんである可能性が高まったと報道された。

また、朝日新聞によれば、長崎東高校2年の安野伊万里さんは昨年、高校生による核兵器廃絶のための署名集めの活動に参加し、今月、集めた署名を持ってスイスの国連欧州本部に届け、この「黒焦げの少年」の写真掲げてスピーチをするという。

多くの人にとって、戦争は遠い昔の悲惨な出来事という見方が普通になってしまった現在、安野さんのような活動は、ともすれば変らない現実には悲観しがちだが、地道に粘り強く続けていくことが大切で、尊い活動だ。それが生き残った者たち(その子孫であるわれわれも含めて)の務めであり、被爆を経験した日本人として生きることの証しになる。

ところが、沖縄県では基地が集中し、現在、東村(ひがしそん)高江ではヘリパッド建設の計画が進められており、住民による反対運動も起きている。

平和な社会を築くためにどうあるべきなのか、今一度考えてみる必要があるのではないかと。

< センターから > 第1回運営協議会 を開催しました

7月7日、多治見市役所北庁舎に於いて、当センターの今年度「第1回運営協議会」を開催しました。平成27年度の決算案及び活動結果の報告・承認の後、各地区からオブザーバーとして出席された3名の指導員の方からお話を伺いました。今回は指導員として15年以上継続しておられる方ということで、多治見地区の村井薫様、瑞浪地区の三宅滋郎様、土岐地区の道林曠様に出席していただき、地域や声かけ活動の現状、子どもたちの様子等をお話しして頂きました。声かけ活動の大切さ、他団体や市民の方との信頼関係、企業や推薦団体の理解と連携が必要とのお話で、センターとしても今後の活動に活かしていきたいと再確認しました。またコンビニエンスストア協会会長の荒木様からは、「コンビニは子ども110番やATMでの防犯チェック等で、地域との連携・協力が大切と考えている。」との話がありました。